

第2号議案—1

品質保証研究会 平成28年度活動計画

1. 活動基本方針

活動成果のなお一層の充実とその活用を図るため、以下の活動を実施する。

- ・全会員対象の講演会、見学会を計画し、会員相互の啓発を図る。
- ・定例研究会活動として、第1、第2の各グループのテーマに基づく、輪読、講義、購読、見学等の活動を推進すると共に、その活動成果を取り纏めて、会員の活用に供するように努める。
- ・会員間の情報交換、コミュニケーションの場の提供を図るため、QASG ニュースを発行すると共に、ホームページの有効活用を図る。

この方針に基づき、平成28年度の具体的な推進計画を以下に記載し、全体の活動計画(補足)を表1に示す。

2. 活動計画内容

2.1 総会

- ・第26回通常総会を開催する。総会終了後、定例研究会活動報告(第1グループおよび第2グループ)、特別講演(内田勝也氏による「セキュリティ心理学の考察 ～人間中心のセキュリティの確立～」および瀬古博子氏「食品安全のためのリスク分析の考え方」)および懇談会を行う。

2.2 講演会の開催

下期(平成29年2月)に1回の講演会を予定する。

2.3 見学会の開催

下期(平成28年10月)に1回の見学会を予定する。

2.4 「QASG ニュース」の発行

年度内(平成28年9月、平成29年1月、29年5月)3回のQASG ニュース発行を予定する。

2.5 定例研究会活動

(1)第1グループ(リーダー：奥平光城会員)

『研究テーマ：品質システムの研究「原子力QMSに対するISO9001改訂の影響評価」』

- 1) ISO9001:2015の改訂による追加項目、削除項目の評価に基づき、実行力のマネジメントシステムの在り方について継続的に審議を進める。また、リスクの定義について、実際のISO9001審査の事例を元に、実効性のあるリスクマネジメントを検討する。
- 2) 規制局、事業者、製造者が一体となったQMS運用の可能性を検討する。リスクをどのように定義するかが、マネジメントシステムの実効性に影響を及ぼすため、大きなQMS運用におけるリスク定義のあり方について検討する。
- 3) ISO9001:2015やIAEA GS-R Part 2等のマネジメントシステム改訂に伴い、原子力セクター規格(JEAC4111, NSQ-100)への考慮すべき項目を検討する。

(2)第2グループ(リーダー：氏田博士会員)

『研究テーマ：エラーマネジメントに関する調査研究』

1) RAGのQA分析用詳細化と分析適用

Hollnagelが提案しているレジリエンス分析評価グリッド(Resilience Analysis Grid: RAG)は、いくつかの国でまた日本の中でもいくつか適用を試みた例がある。我々も原子力QA部門へ適用も視野に入れて検討中であるが、うまく適合して活用出来る段階に至っているとは言えない状況にある。有志によるワーキンググループを設置し、分析と試行を繰り返しつつブラッシュアップを図ることとした。

2) 良好事例分析手法確立と分析適用

前年度分析した良好事例(3事例)また過去に分析した組織事故分析(9事例)の計12例を、統一的な教訓シートに基づき、再度統一的に分析し、横断的な比較検証から教訓を抽出する。

福島第一と福島第二では、同じ東電の従事者として同様の能力を持っていると思われる。その中で異なる結果となってしまったが、何れにしてもそれぞれにおいて異なる条件で異なる良好事例を見ることが出来る。良好事例分析手法を、福島第一と福島第二の事故へ適用し、新たな知見の抽出を試みる。

以上

